

環境省が「評価書」の意見を国交省へ提出(6月5日)

正念場を迎えたリニア新幹線問題

一片平の鶴川総合運動場に、 巨大な立坑と運搬道路の建設問題—

9兆円以上という巨額の建設費、新幹線の3~4倍もの膨大な電力を浪費するリニア新幹線問題はいよいよ正念場を迎えました。麻生区ではヨネッティー王禅寺前の旧日本合成ゴム跡地と、麻生総合高校近くの鶴川総合運動場に直径30mの巨大な立坑(非常口)が掘られ、2つの立坑間の地下40m以深には数キロに渡ってトンネルが掘られます。特に片平では、立坑からの土砂運搬のため取付け道路を片平川へ向かって建設し、橋を渡って尻手黒川線(県道上麻生蓮光寺線)へつなぐ計画です。

この片平川地域と県道沿いには住宅、病院、学校(特に柿生小)、老人ホームなどの施設も多い。土砂搬出のダンプカーや工事車両によって、騒音や振動、粉塵、排ガスによる気管支ぜんそくの増加、交通渋滞や事故の危険にもさらされ、11年間に渡って生活環境の激変と我慢を強いられます。JR東海からは今になっても取り付け道路や橋をどうするかなどの具体的な説明はありません(工事には町田市能ヶ谷7丁目の住宅街道路を走行しなければグランドには入れません)。

また、片平地域には、富士塚古墳や縄文、奈良、平安時代の埋蔵文化財包蔵地があり、立坑及び取り付け道路計画地は貴重な埋蔵文化財の包蔵地と重なっており改変が予想されます。

立坑・トンネル予定地の自治会、 住民が市議会に陳情、請願

王禅寺東の自治会、王禅寺西の住民、東百合丘の住民が、今年の2月、3月、5月にリニアによる住民への影響や問題点を挙げ、「問題解決するまで事業を許可しないことを強く要請します」と市議会に署名を添えて請願、陳情をしました。5月23日、6月13日に市議会まちづくり委員会で審議中です。尚、昨年の環境アセスメント準備書に対する川崎市民の意見書は約3700通にも達しています。



王禅寺東1丁目の自治会の横断幕、旗での意志表示

新聞各社が社説で批判

JR東海は最終段階の環境影響評価書を4月23日提出しました。関係7都県知事、市長などの問題点を指摘した意見書を受けてからわずか1カ月足らずと云う異例の速さです。しかも重要な部分にはほとんどゼロ回答でした。5月5日の朝日新聞は「評価書は疑問だらけ」「なぜこんなに急ぐのか」「早めにブレーキを」と指摘しました。

三下新幹線ルートと
片平立坑と取付道路予想

工事車両
走行ルート
(京浜明分にはいり)

